

「希望の火」インド巡礼記

12月29日 ブッダガヤ

○ダライ・ラマ法王に、釈尊が悟りを開いたブッダガヤで、約65,000人の参列者と共に、「希望の火」に祈りを込めていただきました。

*希望の火を通して、広島のことにも触れたメッセージを世界に発信されました。また、映像は世界配信され、インドのテレビ局でも放映されました。



12月30日

○チベット亡命政府ペンパ・ツェリン首相を表敬訪問。「希望の火」を通して世界へのメッセージをいただきました。



2023 1月6日 ルンビニ

○釈尊の誕生地(ルンビニ)では、「永遠の平和の火」が、釈迦族(お釈迦さまの家系)の末裔の方の手により「希望の火」に合祀されました。



1月11日 ニューデリー

○マハトマ・ガンジーのひ孫、トージヤ・ガンジー氏の主催により、マハトマ・ガンジーの「永遠の火」が灯るニューデリーで、「希望の火」との合祀セレモニーが行われました。



1月15日 ムンバイ

○ナグプール国際空港の名前にもなっている、インド最初の国家憲法起草者・アンベードカル博士(近代インド仏教の父)の「永遠の火」が、「希望の火」に合祀されました。彼の3人のひ孫、大勢の参列者を迎えて、記念式典が行われました。



○1億5千万人インド仏教徒の最高指導者、日本人僧侶、佐々井秀嶺上人に「希望の火」に祈りを込めていただきました。



○極東軍事裁判において、唯一日本無罪の判決文を書いたパール判事の孫、マドゥミタ・ロイ博士に、「希望の火」に祈りを込めていただきました。

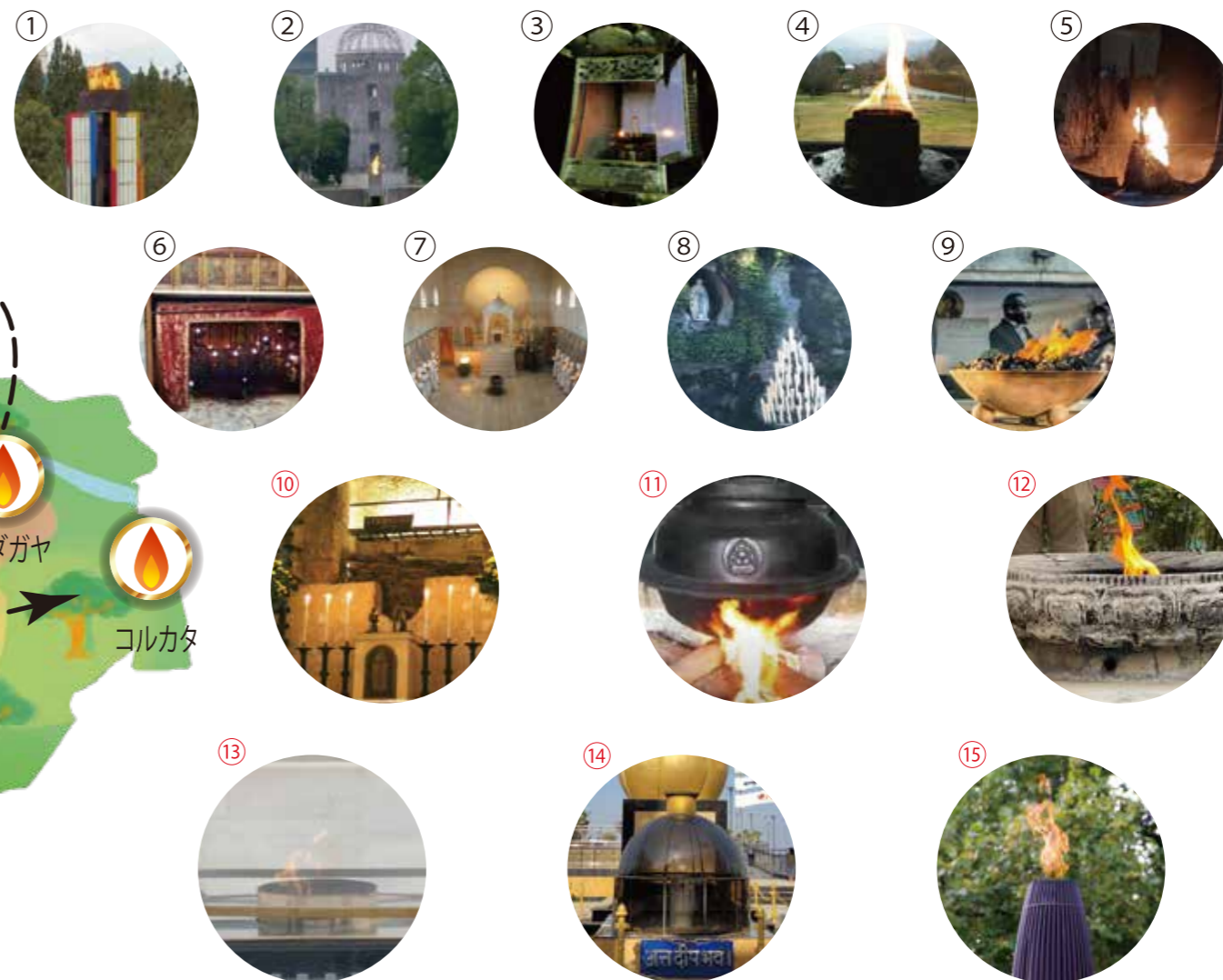


1月23日

○インドの英雄、チャンドラ・ボースの又甥、スガタ・ボース博士が「希望の火」を通して世界へメッセージを発信されました。また、チャンドラ・ボース生誕祭(インドの祝日)にて、「希望の火」が灯されました。*チャンドラ・ボースは、コルカタ空港の名前にもなっている、インド独立の象徴的存在。第二次大戦中、インド国民軍を指揮し、日本軍と共にイギリス軍と闘いました。



希望の火に含まれる人類の聖火



- ①「誓いの火」(長崎市) オリンピアの火
 - ②「平和の灯」(広島市) 平和記念公園
 - ③「西本願寺の常灯明」(京都市)
 - ④「平和の火」(八女市星野村) 広島原爆の残り火
 - ⑤「ホロコーストの火」(エルサレム)
 - ⑥「ベツレヘムの聖火」(パレスチナ) イエス生誕地
 - ⑦「イエス変容の火」(エルサレム)
 - ⑧「ルルドの聖火」(フランス)
 - ⑨「マーティン・ルーサー・キングJrの永遠の火」(アトランタ)
 - ⑩「アッシジの平和の火」(イタリア)
 - ⑪「消えぬの火」(宮島) 大聖院の空海の霊火
 - ⑫「永遠の平和の火」(ルンビニ) 釈尊生誕地
 - ⑬「マハトマ・ガンジー永遠の火」(デリー)
 - ⑭「アンベードカル博士の永遠の火」(ムンバイ)
 - ⑮「自由の火」(オランダ) オランダ解放の火
- ※赤字は2022年度に新たに合祀された聖火

1月17日 ナグプール 1月19日 コルカタ